



# なかすじっ子

2019年  
5月31日

No.7

文責：陸野

5月の生活目標：**規律正しい生活をしよう！**

## 四万十市5校連合小学校 修学旅行道中記 その3



### 【2日目】

6時起床。朝食会場へ向かう時、「おはようございます！」という元気の良いあいさつを子どもたちからもらう。気持ち良く1日がスタートした。

朝食前、「お腹減った～！」の声。無理もない。昨日は17時に夕食だったのだから。朝食もバイキング形式。おのおのがマナー良く、食べられるものを食べられるだけとって食べていた。

「一日泊まらせていただき、ありがとうございました」と退所の挨拶。支配人からは、「皆様の大きな声を聞くと、ぐっすり寝られたのではないかと思います。…楽しい思い出を作ってください」と言葉をいただいた。

ここで、昨日を振り返り、更に良くなるために、今日の注意事項を確認した。

★返事をしっかりしましょう！気をつけて聴いていると、返事のタイミングがわかると思います。返事は、しっかり、大きく、短く言いましょう。

★ガイドさんの話にしっかり反応しましょう！

★今日は大事な勉強があります。今のような空気を大切にしましょう！



7時30分過ぎ、バスの中から手を振ってホテルを後にした。

「おはようございます」とガイドさん。「おはようございます！」と大きな声で子どもたち。「よく寝られましたか？」「はい！」「何時に寝ましたが」「10時！」。

野球結果の予想は、誰も当たらなかったという。今まで、当たったことはないということだった。

ガイドさんの話を聴く態度は、明らかに昨日より反応がよくなっていた。打てば響く子どもたちだと思った。

原爆の子の像の前で歌う「折り鶴」を1度だけ合唱。しっかり歌うことができた。

この日も朝のラッシュ。8時15分の「平和の鐘」の音を聞くためにバスは急ぐ。

8時14分到着。急いでバスを降り、駆け足で原爆ドーム（広島県産業奨励館）のそばへ。全員が到着するやいなや、鐘が鳴り始める。手を合わせ心静かに黙とうをする子どもたち。間に合わないと思っていたので、本当に幸運だった。実はもう一つ幸運があって、バスが到着する直前、右



側に被爆電車（651番）が走っていたのだ。何年も広島に修学旅行に来ている先生が「初めて見た」。これも幸運な出来事だった。

「若者が希望を持って羽ばたけるように」と願いを込めた「動員学徒の碑」の前でも一同、黙とう。

原爆ドームをバックに記念撮影。平和の鐘をつき、供養塔で黙とう。供養塔の両脇に植えられたオガタマノキ。大きく成長したその姿が、時間の経過を物語っていた。



原爆の子の像の前に到着。順番待ちを覚悟していたが、ちょうどすいていた。原爆の子の像の前に整列。そして、「折り鶴」をアカペラで合唱。「♪生きていてよかった それを感じたくて 広島のまちから わたしは歩いてきた♪」「♪羽ばたけ折り鶴 私からあなたへ 羽ばたけ折り鶴 あなたから未来へ♪」皆、気持ちを込めて歌い上げていった。観光客の方も私たちの歌を聴いてくれていた。歌い終わると、5校の代表者が千羽鶴を奉納。他の団体からもたくさんの千羽鶴が奉納されていた。



「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから」と書かれた原爆死没者慰霊碑の前で、平和を誓って黙とう。そして記念撮影。峠三吉の「原爆詩集」を全員で読み、原爆で生き残ったアオギリを見て平和資料館へ。

ここで、実際に被爆された方から聞き取り学習を行った。語り部は長尾ナツミ（ながお なつみ）さん。「心で聴いてください」と言って話を始められた。彼女は14歳、高等女学校3年生の時に被爆された。場所は学校の校庭。爆心地から南東に1.4kmの地点だった。顔と手足に大やけどを負い、腕の皮膚は爪の先から垂れ下がっていたという。家族の献身的な看護で、徐々に回復されたが、髪の毛は焼かれてなくなり、顔はお面をかぶったように赤黒いかさぶたに覆われ、腕は固まって曲げることができなかったという。これで生きていけるのかと一時は自暴自棄になったが、



こんなことではいけないと気づき、腕のリハビリにも取り組み、奇跡的に回復された。その後、努力を重ね、デザイナーとして活躍された。

長尾さんは、被爆されたときやその後の壮絶な体験を私たちに聴かせてくださった。原爆の恐ろしさや残酷さがひしひしと伝わってきた。子どもたちは、時折メモをとりながら、一生懸命に話を聴いていた。しっかりと心で受け止めているようだった。

